

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-123	高等学校	国語	国語総合	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	国総347	新編国語総合 改訂版		

## 1. 編修上の趣旨及び留意点

教育基本法や学校教育法改正の趣旨をふまえ、国民として必要な国語力の知識・教養の修得と、生涯にわたって学習する基盤とその意欲をはぐくむことで豊かな人間性、創造性を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質の育成に寄与する教科書をめざした。

## 2. 編修の基本方針

- ・国語の学習によって、言葉で伝え合う力を高めることを重視し、言語活動を通して、思考力を伸ばし、創造性を養い、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を喚起することで、総合的な国語力が身に付くよう配慮する。
- ・現代文編については、教育基本法第2条に示された教育目標への対応に配慮しつつ、近代から現代まで、さまざまな内容、ジャンルの教材を幅広く取り上げる。
- ・古文編・漢文編については、高校生が身に付けるべき教養として必要な古典作品を精選して収録し、我が国の伝統と文化を尊重する態度をはぐくむよう配慮する。
- ・教材化にあたっては、生徒の興味・関心を喚起しつつ、言語活動を通して、生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

## 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<b>現代文編</b> <b>1 感動する心</b> ワンダフル・プラネット！／メッセージ探しの旅	・豊かな情操や創造性を培うことをねらいとし、「感動する心」の大切さを説く「ワンダフル・プラネット！」、世の中のすべての事や物には、なにかしらメッセージがあると伝える「メッセージ探しの旅」を収録した。(第1・2号)	pp. 9-26
<b>2 小説を楽しむ</b> 子供たちの晩餐／バスに乗って	・想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、子供たちの秘密の計画を描く「子供たちの晩餐」、バスに乗って母親の入院する病院へと通う少年の成長物語「バスに乗って」を収録した。(第1号)	pp. 27-50
<b>3 日本語を考える</b> 人生は「動詞」で変わる／漢字の性格	・言葉や身体についての知識を身に付けるとともに、文化に対する理解を深めることをねらいとし、身体感覚と言葉の関連を説く「人生は『動詞』で変わる」、日本語の表記や語彙の特徴を論じた「漢字の性格」を収録した。(第1・5号)	pp.51-68
<b>4 小説を味わう</b> 羅生門／参考 『今昔物語集』 第巻二九第一八／水かまきり	・想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、近代の名作「羅生門」、挫折を味わう青年と、その青年に淡い恋心を抱く少女の姿を描いた「水かまきり」を収録した。(第1号) ・「羅生門」の典拠となった『今昔物語集』を掲載し、日本の古典が近代、ひいては現代にまで生き続けていることがわかるよう配慮した。(第5号)	pp.69-100
<b>5 文化とことば</b> 水の東西／季節の言葉と出会う	・日本の自然風土や、それと密接に関係する言語文化について興味・関心を抱くことをねらいとし、日本文化と西洋文化の違いを考える「水の東西」、日本人が培ってきた季節のうつろいを感じる感性が、文学の伝統のなかに今も息づいていることを論じる「季節の言葉と出会う」を収録した。(第4・5号)	pp. 101-116
<b>6 自然に目を向けて</b> ペンギンはなぜ一列になって歩くのか？／生きることと食べることの意味	・自然科学分野の教養を身に付けるとともに、生命や自然を尊ぶ態度を養うことをねらいとし、ペンギンのユニークな生態を紹介する「ペンギンはなぜ一列になって歩くのか？」、生命と食の関係を考えさせる「生きることと食べることの意味」を収録した。(第1・4号)	pp. 117-134

<p><b>7 詩歌との出会い</b> はる／一つのメルヘン／あどけない話／短歌／俳句</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像力を養い、豊かな情操を培うとともに、我が国の言語文化に親しむことをねらいとし、優れた詩歌を収録した。(第1・5号)</li> </ul>	pp. 135-150
<p><b>8 読書を広げる</b> 夢十夜／鏡</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、夢での出来事を幻想的に描く「夢十夜」、自分自身と向き合うことの恐怖を怪談仕立てで描いた「鏡」を収録した。(第1号)</li> </ul>	pp. 151-176
<p><b>9 いのちと平和</b> 心が生まれた惑星／コルベ神父／崖</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正義と責任を重んじ、生命を尊ぶとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことをねらいとし、ネアンデルタール人の遺跡の調査から、人間の心の起源について考える「心が生まれた惑星」、アウシュヴィッツに収容されながらも愛の行為を実行したコルベ神父について語った「コルベ神父」、第二次世界大戦中のサイパン島で、崖から海中へと身を投げた女性たちをモチーフにした詩「崖」を収録した。(第3・4・5号)</li> </ul>	pp. 177-194
<p><b>10 社会に生きる</b> 何のために「働く」のか／政治の本質</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主及び自立の精神を養い、他者と協調し合いながら社会の形成に参画することをねらいとし、働くことや社会に参加することの意義を考える「何のために『働く』のか」、個人の選択と決断が社会を動かすことを説く「政治の本質」を収録した。(第2・3号)</li> </ul>	pp. 195-214
<p><b>古文編</b> <b>1 古文に親しむ</b> 古典の魅力／ねずみの婿とり／阿蘇の史、盗人にあひてのがること／見のそら寝</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の伝統文化への興味・関心を喚起し、理解を深めることをねらいとし、古典および古典芸能の特質とその楽しみ方について述べた、古典に関連する近代以降の文章「古典の魅力」を収録した。(第5号)</li> <li>古文を読むための基礎的な知識を身に付け、古典作品の特質を知ることがをねらいとし、昔話としてなじみのある「ねずみの婿とり」を収録し、古文学習へのスムーズな導入を図った。(第1号)</li> </ul>	pp. 215-234
<p><b>2 随筆の楽しみ</b> 枕草子／なんてステキな光景なの！／徒然草</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古人の豊かな情操にふれることをねらいとし、我が国の古典作品として名高い随筆教材を収録した。(第1号)</li> <li>個人の価値を尊重し、創造性を培うことをねらいとし、『枕草子』では随想的章段・類集的章段、『徒然草』では、滑稽譚・教訓譚など、変化に富んだ内容と形式の章段を収録した。(第2号)</li> <li>我が国の自然風土と言語文化の密接な関係に気づくことをねらいとし、作者の自然観や美意識が表れた章段を収録した。(第4号)</li> <li>我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を養うことをねらいとし、古典に関連する近代以降の文章として、訳詩や漫画など「春はあけぼの」を題材としたさまざまな作品を掲載するとともに、『枕草子』の風景描写について述べた「なんてステキな光景なの！」を収録した。(第5号)</li> </ul>	pp. 235-256
<p><b>3 物語の世界</b> 伊勢物語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、歌物語の代表的な作品である『伊勢物語』を収録した。(第1号)</li> <li>我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を養うことをねらいとし、当時の恋愛と結婚について理解を深めるためのコラムを設けるなど、教材化に配慮した。(第5号)</li> </ul>	pp. 257-264
<p><b>4 軍記物語の響き</b> 平家物語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>劇的な展開とリズムカルな文体をもつ軍記作品について理解を深めることをねらいとし、『平家物語』のクライマックスである「壇の浦の戦い」を収録した。(第1号)</li> <li>我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を養うことをねらいとし、古典に関連する近代以降の文章「『平家物語』を読む」を収録し、絵巻作品とあわせて鑑賞の助けとするなど、教材化に配慮した。(第5号)</li> </ul>	pp. 265-276
<p><b>5 和歌と俳諧のしらべ</b> 百人一首／奥の細道</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典に関する幅広い知識を身に付け、豊かな情操を培うことをねらいとし、かるとして親しんできた百人一首と、近世の俳諧紀行文『奥の細道』を収録した。(第1号)</li> <li>生命を尊び、自然を大切にすることをねらいとし、我が国の四季折々の自然風土を詠んだ作品を収録した。(第4号)</li> <li>古人の旅の様子を知り、我が国の伝統文化への興味・関心を喚起し、理解が深められるよう配慮した。(第5号)</li> </ul>	pp. 277-294
<p><b>漢文編</b> <b>1 漢文のとびら</b> 漢文のすすめ／訓読のきまり／訓読に親しむ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の伝統文化への興味・関心を喚起し、理解を深めることをねらいとし、漢文の果たしてきた役割や漢文を学ぶ現代的意義について述べた、古典に関連する近代以降の文章「漢文のすすめ」を収録した。(第5号)</li> <li>漢文を読むための基礎的な知識を身に付けることをねらいとし、人口に膾炙した格言を中心に例文を豊富に収録し、漢文学習へのスムーズな導入を図った。(第1号)</li> </ul>	pp. 295-306

<b>2 故事と史話</b> 故事／史話	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い知識と真理を求める態度を養うことをねらいとし、現代でも使われる言い回しのもととなった故事と史話を収録した。(第1号)</li> <li>寓意を含んだ短文の訓読を通じて、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養できるよう、教材化に配慮した。(第5号)</li> </ul>	pp. 307-314
<b>3 唐詩のしらべ</b> 春眠暁を覚えず／自然のうた／ 友情のうた／憂愁のうた	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、唐詩の名作を「自然のうた」「友情のうた」「憂愁のうた」のテーマ別に収録した。(第1号)</li> <li>我が国の伝統的な言語文化を尊重し、言葉に対する豊かな感性を養うことをねらいとし、近体詩の構成と鑑賞のしかたについて述べた、古典に関連する近代以降の文章「春眠暁を覚えず」を収録するとともに、教材には適宜訳詩の名作を収録した。(第5号)</li> </ul>	pp. 315-328
<b>4 孔子のことば</b> 論語 学而第一／学問のすすめ ／いかに生きるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な言語文化に対する幅広い知識と、真理を求める態度を養うことをねらいとし、中国古典を代表する書物であり、日本人の精神形成にも影響を与え続ける『論語』の章句を、「学問のすすめ」「いかに生きるか」のテーマ別に配列した。(第1号)</li> <li>古典の現代的意義を知り、理解を深めることをねらいとし、『論語』の章句について解説した、古典に関連する近代以降の文章「論語 学而第一」を収録した。(第5号)</li> </ul>	pp. 329-340
<b>5 物語へのいざない</b> 人面桃花	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、唐代の伝奇小説「人面桃花」を収録した。(第1号)</li> <li>高校生の心情に訴える恋愛物語の訓読を通じて、我が国の伝統的な言語文化を尊重する態度を涵養できるよう、教材化に配慮した。(第5号)</li> </ul>	pp. 341-348

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点

- 現代文編においては、「表現の窓」として、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の言語活動を、「読むこと」の教材との有機的なつながりを意識しつつ体系的に位置づけ、「伝え合う力」を総合的に培えるように配慮した。
- 古文編・漢文編においては、「古文を読むために」「漢文を読むために」として、古典を読むための基礎知識を整理したコラムを設けた。また、「古典の窓」として、教材に関連して知っておきたい古典常識などを紹介するコラムを設け、古典の世界がより身近に感じられるよう工夫した。
- 巻末には「古文参考図録」を置き、古文の舞台・暮らし・時間・四季の動植物等に関する写真資料や地図を豊富に示し、それぞれの作品世界により親しみやすくなるよう配慮した。また、後見返しには「古典文学の流れ」と「暗唱 古典名文選」を示し、日本人として知っておきたい古典作品が一目でわかるように工夫した。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-123	高等学校	国語	国語総合	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	国総347	新編国語総合 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### ●基本方針

国語の学習によって、言葉で伝え合う力を高めることを重視し、言語活動を通して、思考力を伸ばし、創造性を養い、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を喚起することで、総合的な国語力を身につけさせることを基本方針とする。また、基礎的・基本的事項の繰り返し学習を重視し、それらを実践的・計画的に学習することができるよう、教材の執筆や選定のしかたに配慮した。

### ●構成

単元構成は教材のジャンルに配慮しつつ、各単元のねらいにもとづいたテーマ別に編成し、国語科の基礎として必修すべき内容を明確にした。「言語活動例」については、現代文編の各単元末に「表現の窓」を設け、教材文と有機的に関連づけながら具体的な手順を示しつつ、実践的な表現学習が繰り返し効果的に行えるよう配慮した。

### ●教材選択にあたっての配慮

現代文編では、現代の高校生が読むに値するテーマを追求した新鮮な作品や、評価の定まっている基本的な作品をバランスよく配置し、読書生活に配慮した単元も設けた。

古文編・漢文編では、基本的な名作・名文を精選して収録するとともに、古典について書かれた近代以降の文章を収録し、我が国の伝統文化への興味・関心を喚起し、理解を深められるよう配慮した。

### ●教材化の工夫

- 1 教材化にあたっては、脚注の欄に、「語注」「設問」「注意する語句」「重要古語」「訓読で注意する文字」などを適切に付けるとともに、各教材末に「学習のポイント」「課題」「練習」などを設け、内容の理解と表現・言語事項の学習を実践的に行うことができるよう配慮した。また、特に現代文編の漢字学習については、重要な漢字を抜き出し、脚注欄にまとめて掲げたり、各教材末に、適宜、漢字の練習問題「漢字レベルアップ」を設けるなどの工夫をした。
- 2 古文編、漢文編では、最初の単元を「入門」単元と位置づけ、教材に傍訳や、現代仮名遣いによるルビ、書き下し文を付けるなど、古典の学習に慣れることができるよう、教材化の工夫をした。あわせて「古典の窓」の欄を設け、古典と現代のつながりを意識させ、古典に親しみながら理解を深められるようにした。
- 3 「古文を読むために」「漢文を読むために」の欄を設け、文語文法、修辞、漢字、漢詩などについての基礎知識を教材に即して学習できるようにした。

### ●付録の充実

- 1 「付録」では、「封筒・はがきの書き方、時候の挨拶の例」「原稿用紙の使い方」「正しい表記のための用字用語一覧」など、実生活で役立つ資料をまとめて示した。また、教材に即して参照できる「重要古語一覧」や「古典文法のまとめ」「漢文訓読のまとめ」を収録し、古典学習の基本的な事項を繰り返し確認できるよう配慮した。
- 2 巻末には「古文参考図録」を置き、「古文の舞台」「古文の暮らし」「古文の時間」「旧国名地図」のまとめりに写真資料や地図を豊富に示した。教材理解のために欠かせない平安京の様子や、装束・色、月の満ち欠けや四季の動植物などを一覧することで、古典の世界により親しみやすくなるよう配慮した。
- 3 後見返しには「古典文学の流れ」とあわせて「暗唱 古典名文選」を示し、日本人として知っておきたい古典作品が一目でわかるように工夫した。



